

# 1. 第三者評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2872700444
法人名	社会福祉法人那珂の郷
事業所名	グループホームグリーンヴィラ那珂
所在地	兵庫県多可郡多可町中区牧野字国木谷166-9-1 (電話)0795-32-5265
評価機関名	NPO法人兵庫福祉調査センター
所在地	尼崎市南武庫之荘2-27-19
訪問調査日	平成21年11月27日

## 【情報提供票より】 (平成21年11月6日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 4人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り
	1階建ての ~1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,380 円			

### (4) 利用者の概要 (11月 6日現在)

利用者人数	8名	男性	3名	女性	5名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 84歳	最低	78歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中町赤十字病院・近藤医院
---------	--------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体の法人は、地元の建設会社の経営者が、福祉事業に関わりたいとの熱い思いで立ち上げられた。兵庫県多可郡多可町の静かな山あい、グループホームの他、特別養護老人ホーム・デイサービス・ショートステイの各事業所が併設されている。グループホームグリーンヴィラ那珂は、平屋建ての落ち着いた建物で、居室の他共用部分がゆったりとした造りで、利用者1人ひとりの個性・好みを重視したケアがなされて、利用者にとって、住み慣れた地域での、心やすまる居場所になっていることが実感できる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 地域との付き合い・同業者との交流・災害対策の3点が指摘されていたが、災害対策は、隣接特養・地区消防団との合同訓練を実施、改善された。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 前回の評価結果を踏まえて、自己評価は職員全員で取り組み、検討会を実施するなどの意欲が見られ、自己評価をサービスの向上に繋げようと努力している。運営者・管理者・職員が一丸となって、より良い施設運営を目指されたい。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は、利用者家族・地域の代表・施設関係者で、3ヶ月に1回の割りで開催して、ホーム内の暮らしぶりの報告や地域の方の介護体験の発表の機会として活用している。運営者・管理者は運営推進会議が地域に対する介護情報の受信・発信の絶好の機会であることを認識して、今後は、2ヶ月に1回の定期開催と出席メンバーの拡大について努力する事を期待したい。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8) 利用者の暮らしぶりは、毎月発行の家族宛の「おたより」で知らせており、家族からの意見や要望は来所の際や運営推進会議で聞き取り、職員会議等で情報を共有して、問題解消に努めている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地理的な問題もあり、地域との交流は活発とはいえないが、事業所開設5年を経過して、地域からの行事参加要請、近くの高校生のボランティア受け入れが可能となった。今後は、受身ではなく、地域に対して、認知症高齢者介護の情報発信基地としての役割が果たせるような取り組みを検討されたい。

## 2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気をもって、地域との交流を大切にし、利用者の立場に立った支援を目的とした理念が定められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を日頃から目に止められるよう、施設入り口や職員の事務机に設置し実践する努力がなされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地理的な問題もあり、地域との交流は活発とはいえないが、事業所開設5年を経過して、地域から行事の参加要請を受けたり、地元の高校生がボランティアとして、事業所を訪問してくれるようになった。	○	地域からの行事招待などの受身的な活動にとどまらず、今後は、施設側からの発信として、一步踏み込んで地域社会への社会的な貢献として、知名度を高められるような努力を期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の第三者評価を踏まえ、今回の自己評価は職員各自が取り組み、検討会を実施するなどの意欲が見られ、結果をサービスの向上に繋げようとの、努力の後が見られる。	○	運営者・管理者は職員の意欲を評価し、意識の共有化を計ると共に、具体的な提案等を積極的に取り入れて、より良い施設運営にむけての更なる努力を期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日程調整等の困難ななかにおいて、2ヶ月に1回の開催には至っていないが、GHの現状報告や、参加者からの介護体験などを聞き取る機会がもたれている。		
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症サポーター養成講座開催を行政担当者に働きかけ、キャラバンメイトの活動にも取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについては、おたより（ニュース形式）を通じて、行事への参加の様子などがお知らせされている。身体状況については、受診時にケアマネが同行し報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所スペースは施設の中央部にあり、開放的で、いつでも利用者や家族が職員と話ができる取り組みがされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の健康状態や家族の状況を聞き取り勤務体制に反映し、対応状況に影響されないような配慮がされている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、経験や資格を考慮した研修計画を組み、法人内での勉強会も実施されている。	○	職員は意欲も有り、利用者の高齢化に向けての新たな学びの必要性を感じており、精神状態や身体変化に即応できる資質向上に向けた研修のあり方を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設との連携は未整備であるが、ケアマネ連絡会等を通じて、情報交換等が図られている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族を招いて、利用者と一緒にお茶や食事を楽しむ機会を作り、馴染んで頂けるような雰囲気作りがなされている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	基本的に人生の先輩としての視点で対応することが指針とされている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを理解するように経験や体験を聞き取ることが重要視されている。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別にコミュニケーションを図り、本人の趣味や生活暦を反映できるプランづくりがなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じたカンファレンスが持たれ、現状を反映できる取り組みが成されている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	健康管理に重点がおかれ、同法人内の施設とも連携した取り組みが可能となっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からのかかりつけ医に継続的に受診できるような支援ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルについては緊急的な医療支援体制が困難なことから、対応できないことの説明が入所時になされており、個別的に身体変化にともなう対応状況の確認説明がなされている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員対象に入社時にプライバシー保護の取り組みが説明され、誓約書提出の確認がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予定表を事前にお知らせし、その日の予定を自分で選べるように支援されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節行事や季節の食べ物など、手作りを楽しみ、準備や片付けなども出来ることから参加できる場面が作られている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人で入浴できる人は希望日の入浴ができています。介助を必要とする人にもスタッフの対応状況に幅を持たせて、なるべく希望に添えるように取り組まれている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴重視の取り組みから、できそうなことを選び出し、日常生活上に役割が持てるような取り組みが成されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	同法人運営による庭を挟んだ、他の施設の喫茶へは日常的に出かけることが出来る。また、自然環境を生かした取り組みとして、季節ごとに、花・山菜・栗拾い・紅葉狩りなど楽しめるようになっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は鍵をかけない実践ができており、庭先に自由に出入りできる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防団と一緒に年間2回の火災訓練が実施されている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分管理表が用意され、記録確認ができています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	サロン中央部にはストーブが焚かれ、安全管理上の柵も木製で作られ、落ち着いた雰囲気が保たれており、畑には季節の野菜が植えられ、収穫作業も楽しめるなどの工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の持ち込みもなされており、居室の入り口には好みの品が飾られている。		

※  は、重点項目。